



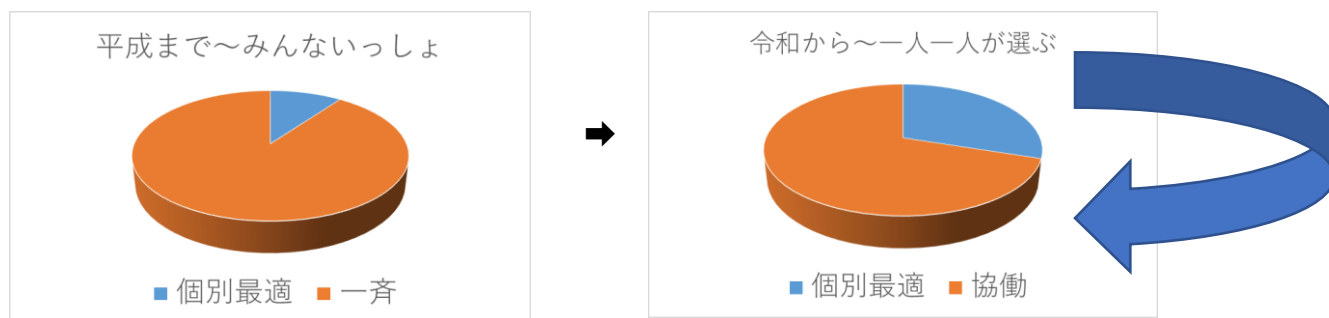
## 「選ぶ学び」 個別最適な学びを実現するために

みなさまは、ご自身がもう一度小学校に入るとしたら、どのような学校がよいですか？

様々な答えがあるでしょうが、学校が「自分の目的に向かい、学ぶ内容・学ぶ方法・学ぶ速さ・学び合う相手を選んで、自分にとって意義あることを学ぶ場所」というのはどうでしょう？

これまで、日本でほとんどの学校で行われてきた「同じ問題をクラスみんなで考えてみんなができるようになることを目指す」一斉型の授業は成果を上げてきましたし、これからも授業の中心となるでしょう。小学校は初等義務教育として日常生活に必要なことを学ぶので、ほとんどの授業で同じ内容を学ぶことも当然です。現実問題として、30人以上に一人の教員という環境では一斉型の授業とせざるを得なかったということも確かです。

しかし、これからの時代を生きる子どもたちは、一人一人が自分の学びを選び、自分の学びに責任を持ち、学び続ける人になる必要があります。そのキャッチフレーズが「個別最適な学び」つまり自分にとって一番よい学びです。大庭小学校でも校内研究として個別最適な学びを取り上げ、目標・内容・方法・速さなどを「選ぶ学び」の実現に取り組みます。



子どもたちが学びを選ぶとなると、これまでとは違った教育資源や環境が必要となります。大きく次の4つを考えています。

### 1 ICTの活用

一人一台端末は強い味方となります。例えば、学習動画を使えば、わかるまで何度も視聴することができますし、ドリルソフトを使えば苦手なところを重点的に学ぶこともできます。「読みの苦手な子のためのマルチメディアデージー教科書」などのデジタル教材は、強力な支援ツールです。

写真

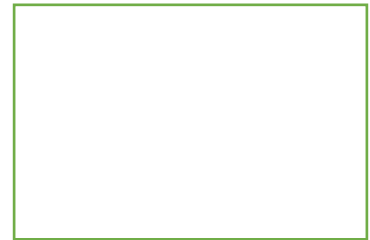
## 2 学年担任制の活用



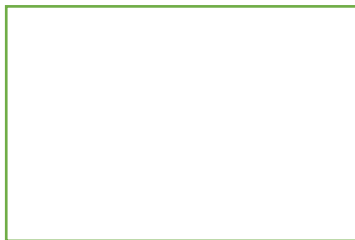
学年を再構成して、例えば、子どもの興味に応じたグループをつくれば、3クラスの担任がより柔軟に対応することができます。教職員も個性がありますので、得意分野を生かすことにもなります。学年担任制では、道徳の授業をローテーションで行ったり、授業を交換したりといったことも取り組んでいます。HPに学年ごとの経営案を掲載します。写真はローテーションで道徳をしている様子です。

## 3 地域の学習サポーターの活用

多様な子どもたちに対応するために、地域・保護者の皆様のお力もぜひお貸しください。学期末には、学級を再構成し学習進度に応じた学習を行い、サポーターを募集する予定です。これをはじまりに徐々に拡大していきたいと考えています。写真は昨年度の学習サポーター試行の様子です。



## 4 子どもたちの学び合いの活用



個別最適は、必ずしも一人一人が別々を意味するものではありません。一人で取り組みたい子もいれば、友達と考えたい子、先生に教えてほしい子…がいるでしょう。教科書がいいか、ドリルソフトがいいか、学習動画がいいか…も、それぞれです。自分のやり方で進めて、一人ではわからない、困ったというときに援助要請ヘルプを出せることはとても大切です。一緒に考えてくれる他者は最大の資源です。写真は6年生が自分の方法・速さで学習している様子です。単元内自由進度学習といいます。

4つの資源を活用して環境を整えていきますが、最終的に選ぶのは子どもたちです。自分の学びを自分でつかみ取ることが、将来の自立につながります。そして子どもたちでできることが増えていくと、教職員の役割も変わってきます。本当に先生がいないと到達できない学びとは何かということを必然的に考えることになっていきます。学校の存在は大きく変わっていくことでしょう。

学校だよりは不定期で発行します。日々の大庭小学校の様子はホームページでご覧いただけると幸いです。 → → → → → → → →

